

伊集院保健所感染症情報

2026年第38週（令和8年9月14日～令和8年9月20日）

【お問い合わせ先】 〒899-2501 鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1 鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）

TEL (099) 273-2332 / FAX (099) 272-5674 / E-mail kago-kenko-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島地域振興局 URL <http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiiki/kagoshima/index.html>

定点把握感染症

管内流行発生注意報発令！：インフルエンザ

管内流行発生警報発令！：水痘

管内流行発生警報発令中：ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

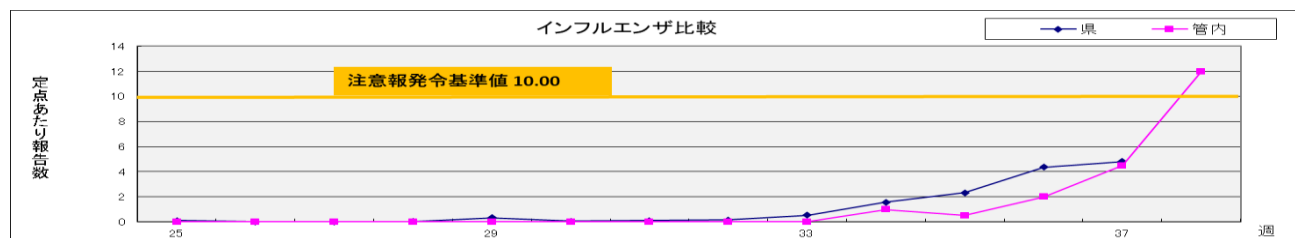
定点医療機関【ARI2（インフルエンザ・COVID）、小児科1、基幹定点1】

疾患名	警報基準値		注意報	伊集院保健所管内					県	
	開始	終息	基準値	第35週	第36週	第37週	第38週	先週からの増減	第37週	前週からの増減
ARI（急性呼吸器感染症）	—	—	—	80.00	84.50	115.50	124.00	↗	55.63	↗
インフルエンザ	30	10	10	0.50	2.00	4.50	12.00	↗	4.81	↗
COVID-19	—	—	—	0.50	0.50	0.00	0.00	→	0.65	↗
咽頭結膜熱	3	1	—	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.81	↘
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—	5.00	8.00	7.00	7.00	→	1.81	↘
感染性胃腸炎	20	12	—	3.00	3.00	1.00	2.00	↗	3.87	↗
水痘	2	1	1	3.00	1.00	0.00	4.00	↗	0.16	↘
手足口病	5	2	—	1.00	2.00	2.00	2.00	→	0.45	↘
伝染性紅斑	2	1	—	1.00	0.00	0.00	0.00	→	0.03	↘
突発性発しん	—	—	—	1.00	0.00	0.00	0.00	→	0.55	↗
ヘルパンギーナ	6	2	—	0.00	0.00	8.00	9.00	↗	0.74	↗
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.10	↗
R S ウイルス感染症	—	—	—	0.00	4.00	3.00	3.00	→	1.52	↘

※警報域：太文字で赤色の塗りつぶし、注意報域：太文字で黄色の塗りつぶし

注意すべき感染症

・インフルエンザ（流行発生注意報発令！）



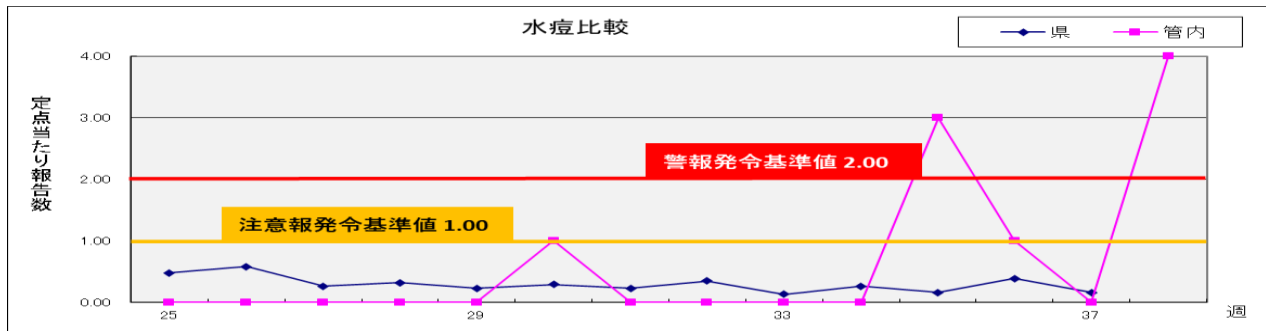
第38週の伊集院保健所管内におけるインフルエンザの報告数は、24人（定点当たり12.00）でした。

年齢別では、80歳以上（6人）、10～14歳・50～59歳・70～79歳（各4人）、40～49歳・60～69歳（各2人）、20～29歳・30～39歳（各1人）でした。

インフルエンザは、発症すると38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感などの症状が比較的急速に現れることが特徴です。小児ではまれに急性脳症を引き起こすことがあり、高齢者や免疫が低下している方では二次性の肺炎を伴うことがあります。重症化するリスクがあるため、注意が必要です。

予防方法としては、普段から流水と石けんによる手洗いや、ワクチン接種をすること、咳が出る場合は、「咳エチケット」をすること、さらに十分な休養とバランスのとれた栄養を摂取することが挙げられます。

・水痘（流行発生警報発令！）



第38週の伊集院保健所管内における水痘の報告数は、4人でした。年齢別では、1歳・4歳・5歳・8歳（各1人）でした。

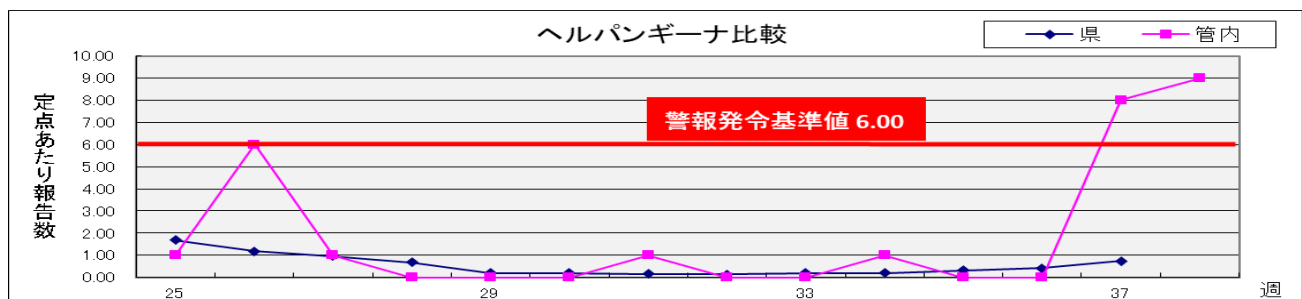
水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、これは水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる発疹性の病気です。感染から2週間程度の潜伏期間を経て発疹が現れます。

臨床経過は一般に軽症で、倦怠感、掻痒感、38℃前後の発熱が2～3日間続く程度です。典型的な症例では、発疹は紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水疱（水ぶくれ）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒します。

感染経路には、空気感染や飛沫感染、水疱の内容物との接触による接触感染などがあり、発疹が出現する1～2日前からすべての水疱が痂皮化するまで感染力があります。

予防方法としてはワクチン接種が推奨されています。周囲に患者がいる場合は、患者との接触を避け、手洗いを励行しましょう。

・ヘルパンギーナ（流行発生警報発令中）



第38週の伊集院保健所管内におけるヘルパンギーナの報告数は、9人でした。年齢別では、2歳・4歳・5歳（各2人）、1歳・7歳・9歳（各1人）でした。

ヘルパンギーナは、発熱とともに、のどに痛みと水疱が現れる「夏かぜ」の一種です。

感染症発生動向調査によると、乳幼児を中心に5歳以下が全体の90%以上を占めます。病気の原因となるウイルスは、主にエンテロウイルス属のコクサッキーウイルスA群です。

主な症状は、感染してから2～4日後に、突然の発熱に続いて、のどに痛みと水疱が現れます。発熱は1～3日続き、食欲不振、全身のだるさ、頭痛などを起こします。一般的に経過は良好で、2～3日以内に回復します。しかし、合併症として、熱性けいれん、脱水症、小児ではまれに髄膜炎や心筋炎などの注意が必要です。ヘルパンギーナは、発症後2～4週間頃まで便からウイルスが排せつされるため、発症した乳幼児のおむつ交換を行う時は、排せつ物を適切に処理し、流水と石けんでしっかりと手洗いをしてください。また、咳やくしゃみをする際は、マスクを着用したり、ティッシュで口を覆うなどの咳エチケットを心がけましょう。

○学校における感染症による出席停止の状況 9/14～9/20（出典：学校等欠席者・感染症情報システム）

今週は、インフルエンザが2人（型不明、A型）、水痘1人、感染性胃腸炎1人が報告されています。

疾患名 自治体名	インフル エンザ	インフルエ ンザA型	水痘（みず ぼうそう）	感染性 胃腸炎
日置市	0	0	1	0
いちき串木野市	1	1	0	1
三島村	0	0	0	0
十島村	0	0	0	0
計	1	1	1	1